

星ふるさと 阿智村
まち・ひと・しごと創生総合戦略

人口ビジョン 総合戦略



平成27年～31年
長野県阿智村

村長あいさつ



「星ふるさと」人も星も輝く阿智村に

村 長 熊 谷 秀 樹

このたび「阿智村版まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。一年間かけ、住民の皆さんや各団体の皆さん、これからを担う若い人達に積極的に意見を聞き、方針をまとめました。

総合戦略においては、30年後にあたる2045年の阿智村人口目標を、現在人口の80%に相当する5,356人に設定しました。この目標を達成するためには出生率1.9、年間移住数68人が目安となります。具体的にはここ5年間の年間平均移住者数44人に加え、大卒時のUターン・20代のIターン者を男女各4人、30代子育て世代を4組12人、定年後の夫婦2組4人、計24人の移住受入れが目標となります。

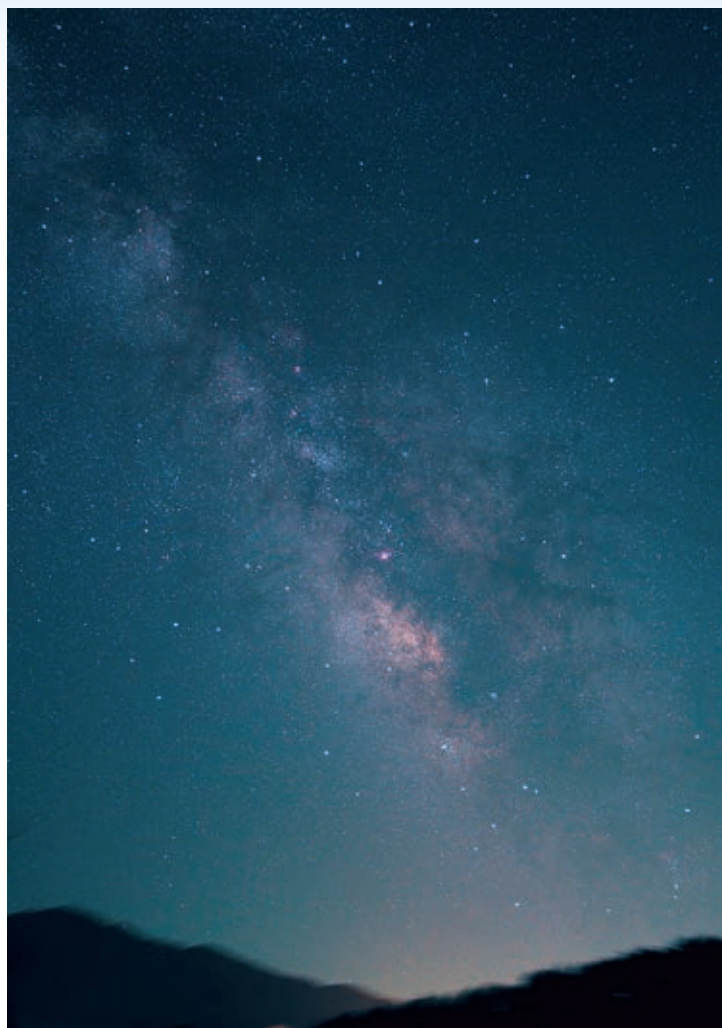
近年、阿智村には昼神温泉を中心に、日本一の称号を頂いた星空や花桃などを楽しむため年間120万人の観光客が訪れています。このメリットを生かし、交流人口をさらに増やすとともに、阿智村にいつかは住んでもらうための施策に取り組むことで定住へとつなげます。また子供時代に地域の自然や歴史を体験することでUターン者の増をめざします。そして何より住民自治の活性化により地域力を高めることが定住につながると信じています。

これらの方向性を具体的に毎年の事業計画へと反映していきます。「阿智家族」をキャッチフレーズに、定住、人口増に取り組む中で、教育、福祉健康、くらし、観光、産業振興などすべての政策に反映していきたいと思っています。

「星ふるさと」として星も人も輝く阿智村をめざしていきたいと思っています。

星ふるさと 阿智村
～日本一の星空と花桃といで湯の郷～

人口ビジョン



阿 智 村

目 次

目 次	2
村長あいさつ	3
1. 策定にあたって	4
2. 人口の現状	5
(1) 人口推移	5
(2) 自然動態と社会動態	6
自然動態	6
社会動態	9
3. 将来人口の推計と分析	12
(1) 将来人口推計と目標	12
(2) 地区別推計結果	14
(3) 清内路地区の移住促進の取り組み	15
4. 人口減少問題に取り組む基本的視点	16

1. 策定にあたって

平成 26 年 11 月に制定された「まち・ひと・しごと創生法」では、「急速に進む少子高齢化の進展に対応し、日本全体、特に地方の人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正する。それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことが喫緊の課題である」としています。

そしてこの課題に対応するための国の施策は以下の 3 つです。

1. 国民一人ひとりが夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成
2. 地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保
3. 地域における魅力ある多様な就業の機会の創出

これらの施策の推進にあたっては、国と地方が一体となり、中長期的視点に立って取り組む必要があるため、都道府県や市町村においても「地方人口ビジョン」及び「まちひとしごと創生総合戦略」を策定することが求められています。その中では市町村ごとに人口目標を立てることが必要とされています。

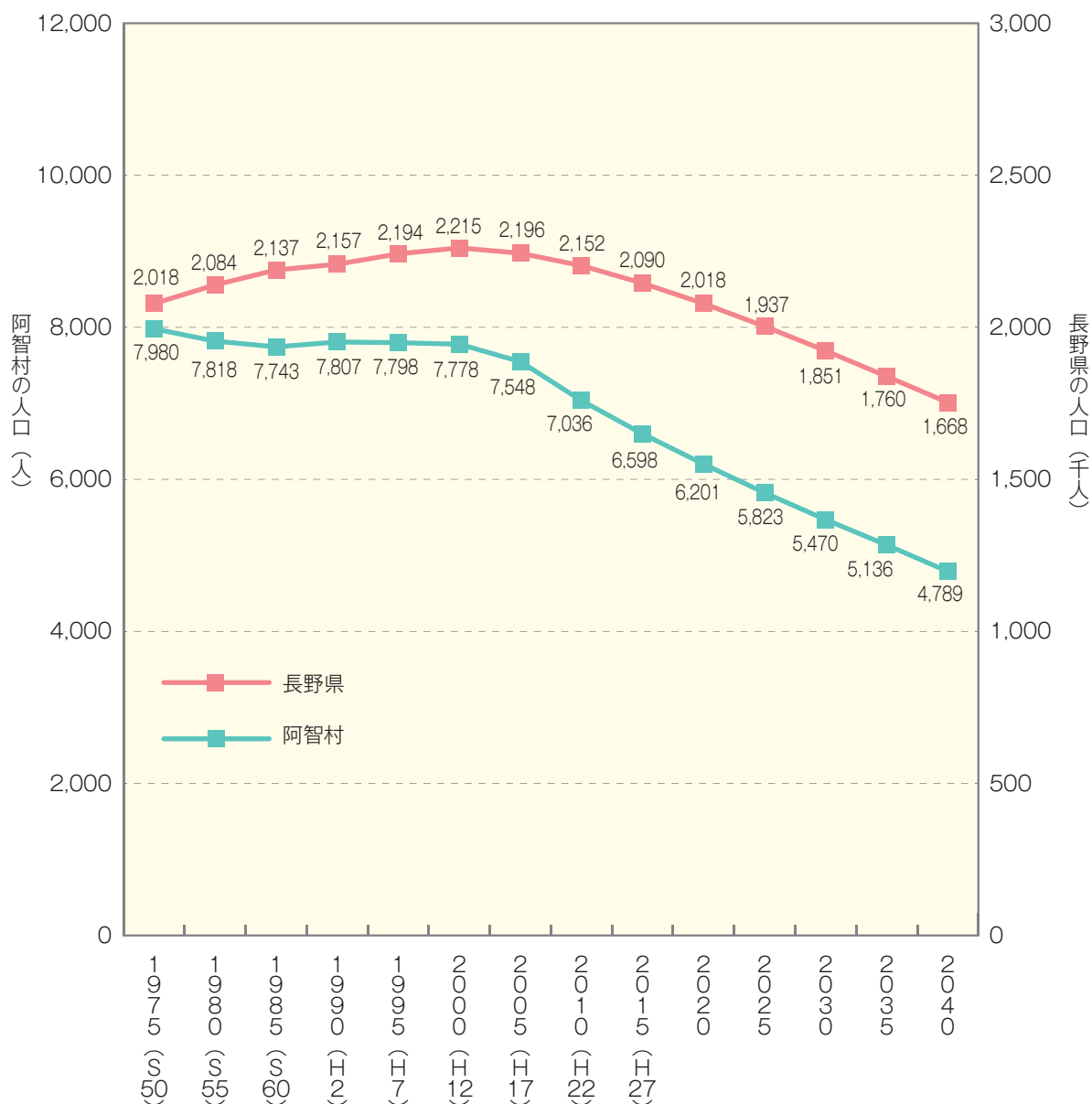
阿智村人口ビジョンでは、阿智村における人口の現状と将来の姿を提示し、阿智村の地域づくりをすすめていくための方向性を明らかにします。



2. 人口の現状

(1) 人口推移

阿智村の人口は2015年5月時点で6,601人です。1975年からの25年間、旧清内路村・浪合村を含む阿智村の人口は7,800人前後で推移し、ほぼ一定でした。しかし2000年以降、人口の減少が続いており、今後も減少が続く見込みです。長野県全体においても2000年を頂点に人口減少へと転じています。



出典：2010年までは国勢調査による実績値（2005年以前は浪合村・清内路村を含む）。2015年以降は社会保障・人口問題研究所による推計値。

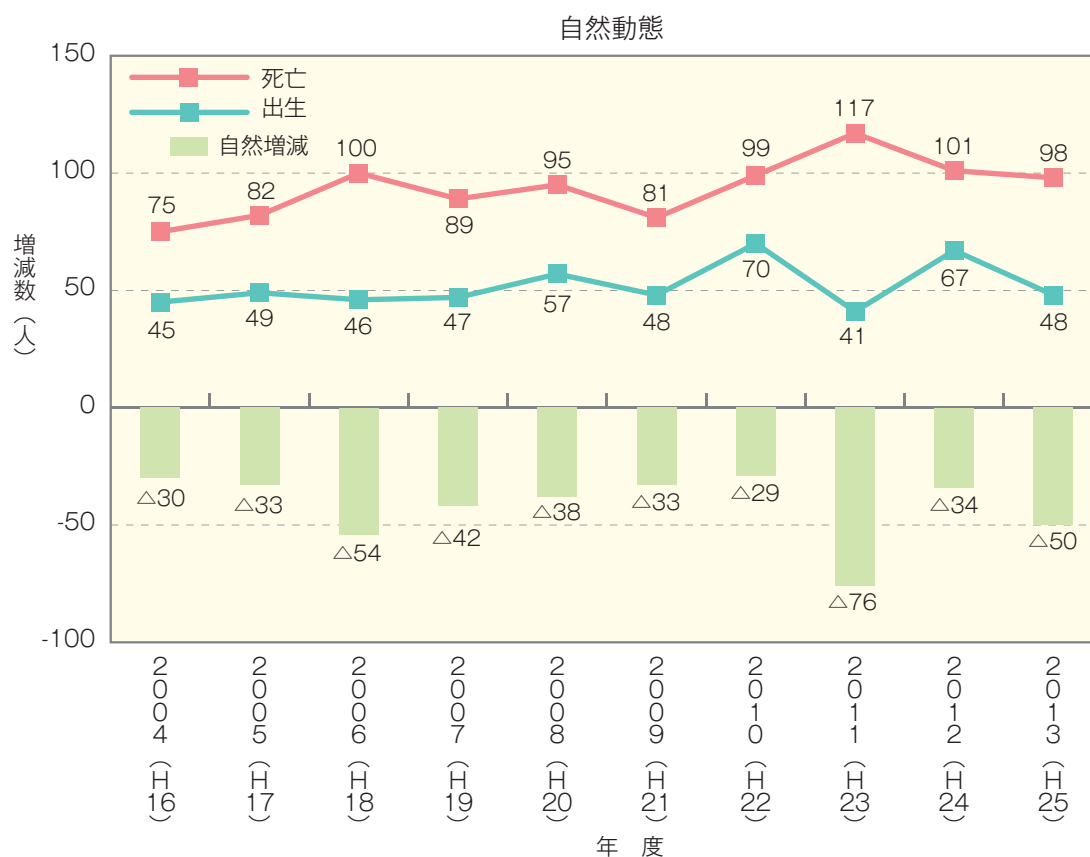
(2) 自然動態と社会動態

2004 年～ 2013 年の 10 年間に阿智村の人口は 810 人減少しました。そのうち、419 人が自然減、391 人が社会減となっています。

項 目	総 数	年間平均
自然動態	－ 419	－ 42 人
社会動態	－ 391	－ 39 人
年間増減	－ 810	－ 81 人

■自然動態

1998 年以降、死亡数が出生を上回り、自然減が続いています。高齢者人口が多いことから自然減は今後も続くと見込まれます。

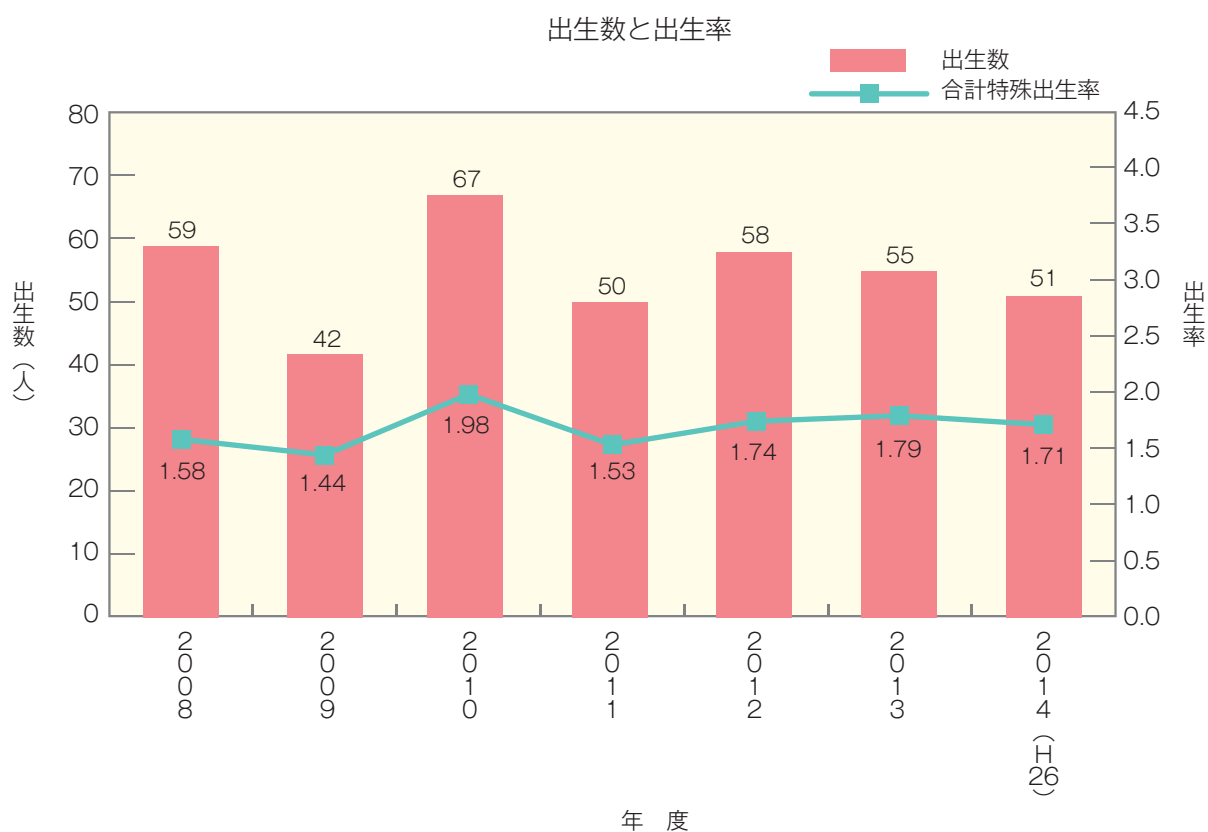


出典：阿智村の統計 2014

■出生数と出生率

平成 26 年の阿智村の合計特殊出生率は、1.71 で、長野県平均 1.54 と比較し高水準を保っています。2008 ～ 2012 年の 5 年間ににおける合計特殊出生率は 1.69 です。長野県全体では 1.53 であり、県平均を上回っています。しかしながら人口置換水準である 2.07 には届かず、人口減は避けられない状況です。

出生数はこの 5 年間で 281 人、年平均 56.2 人となっています。なお、社会保障・人口問題研究所の全国調査（＊ 1）によりますと理想の子ども数をもたない理由として子育てに関する経済的負担が理由のトップとして挙がっています。出生を希望する人が安心して産み育てられる社会を構築することが必要です。



出典：阿智村役場民生課



■未婚率

未婚率はこの10年間、上昇しており、生涯未婚者の増加と晩婚化の進行が見込まれます。男性については2010年時点で50代前半の男性の17.5%が未婚者となっています。対して50代前半の女性の未婚率は5.8%と男性の未婚率が大きく上回っています。

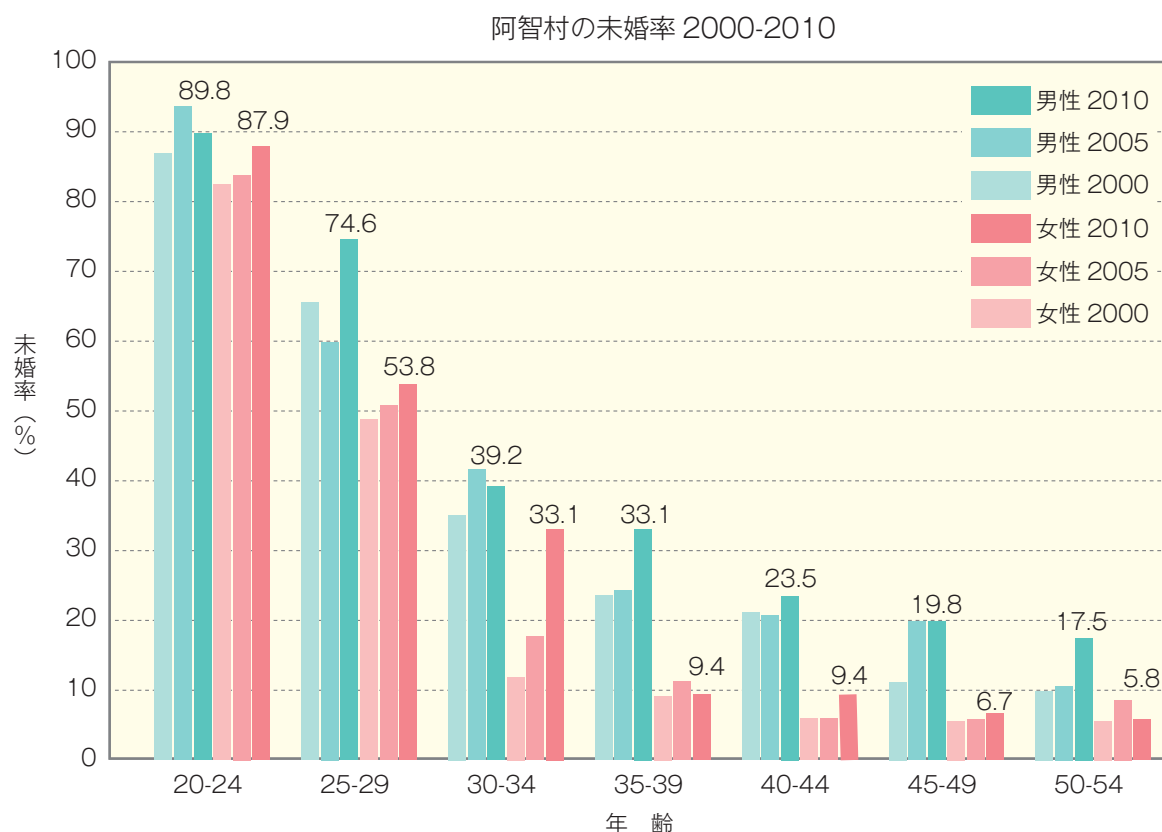
一方、女性については2010年の30代前半未婚率が33.1%と5年前の24.3%に比べ急増しています。また男女とも40代以降の結婚は少なくなっています。結婚を希望する未婚者がその思いを実現するための支援が必要です。

なお全国的な調査（＊1）によると結婚を望む未婚者は85%を超えており（国立社会保障・人口問題研究所2011）、阿智村においても結婚を望む未婚者が多いと考えられます。平成26年版男女共同参画白書（＊2）によると、婚姻率と明らかに関係があるものとして就業形態が挙げられており、男性非正規社員の婚姻率は各年代とも低くなっています。また女性においては正社員において婚姻率が低くなっています。一方、結婚前の職業に注目した分析では、非正規社員の女性において結婚が遅れるとの結果が出ています（＊3）。したがって労働も含めた若者を取り巻く環境を考え、将来に希望をもてる社会をつくる必要があります。

＊1 国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査結婚と出産に関する全国調査」

＊2 内閣府男女共同参画局「平成26年版男女共同参画白書」

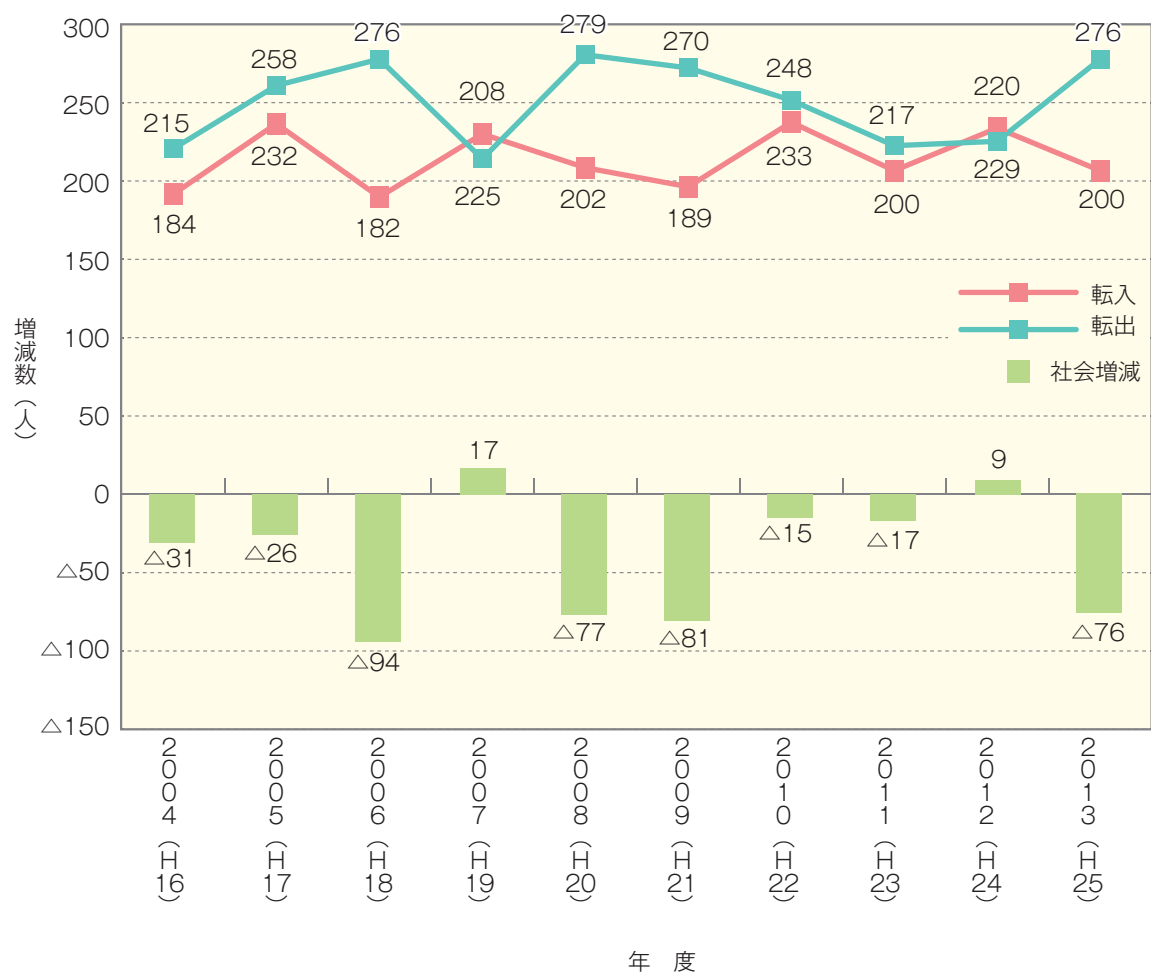
＊3 永瀬伸子（2002）「若年層の雇用の非正規化と結婚行動」人口問題研究 58－2 p22～35



出典：国勢調査

■社会動態

年によって変動があり、社会増となった年もありますが、平均するとこの10年間では年間39人が転出超過となっています。

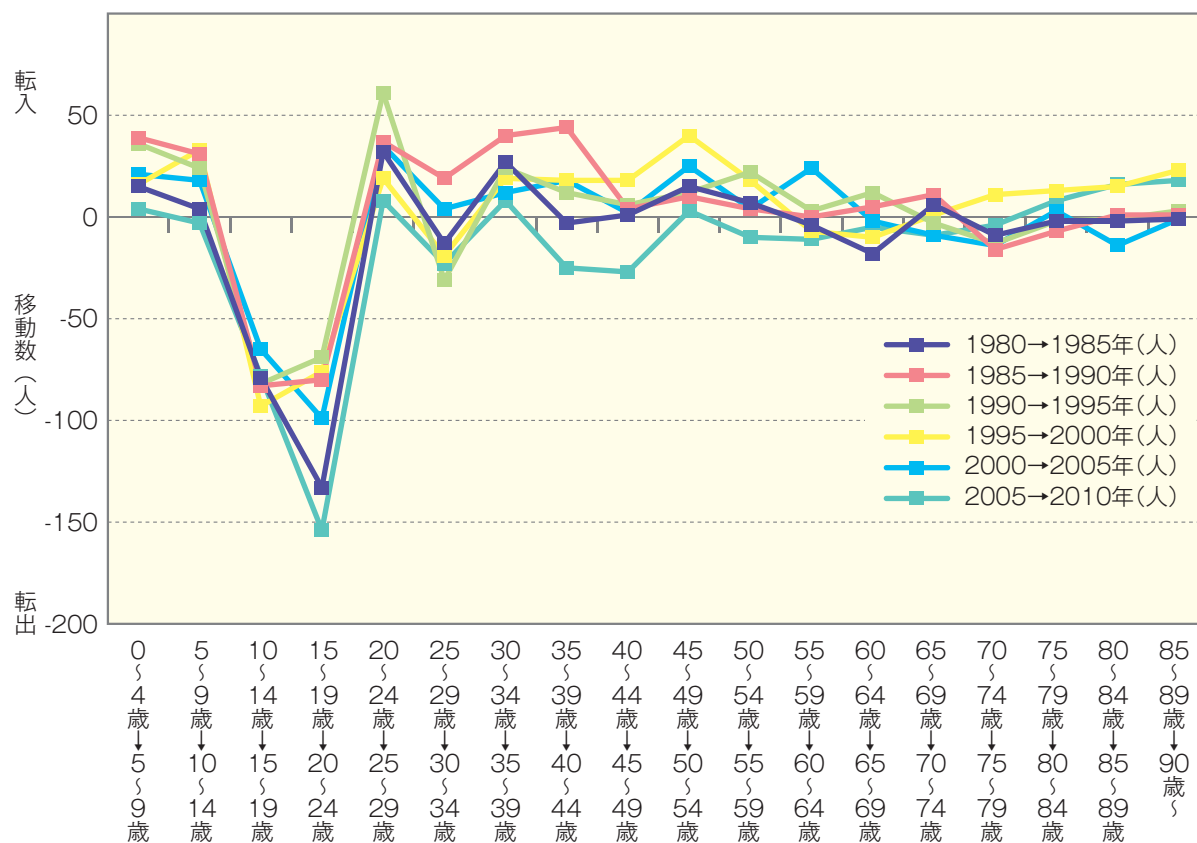


出典：阿智村の統計 2014



■年齢別移動状況

15～19歳→20～24歳において転出が大きく超過しています。これは進学や就職に伴うものです。20～24歳→25～30歳においては転入が超過し、Uターンしていることがわかりますが、転出分は取り戻せていません。とりわけ2005年から2010年にかけては転出数が過去最高となっています。

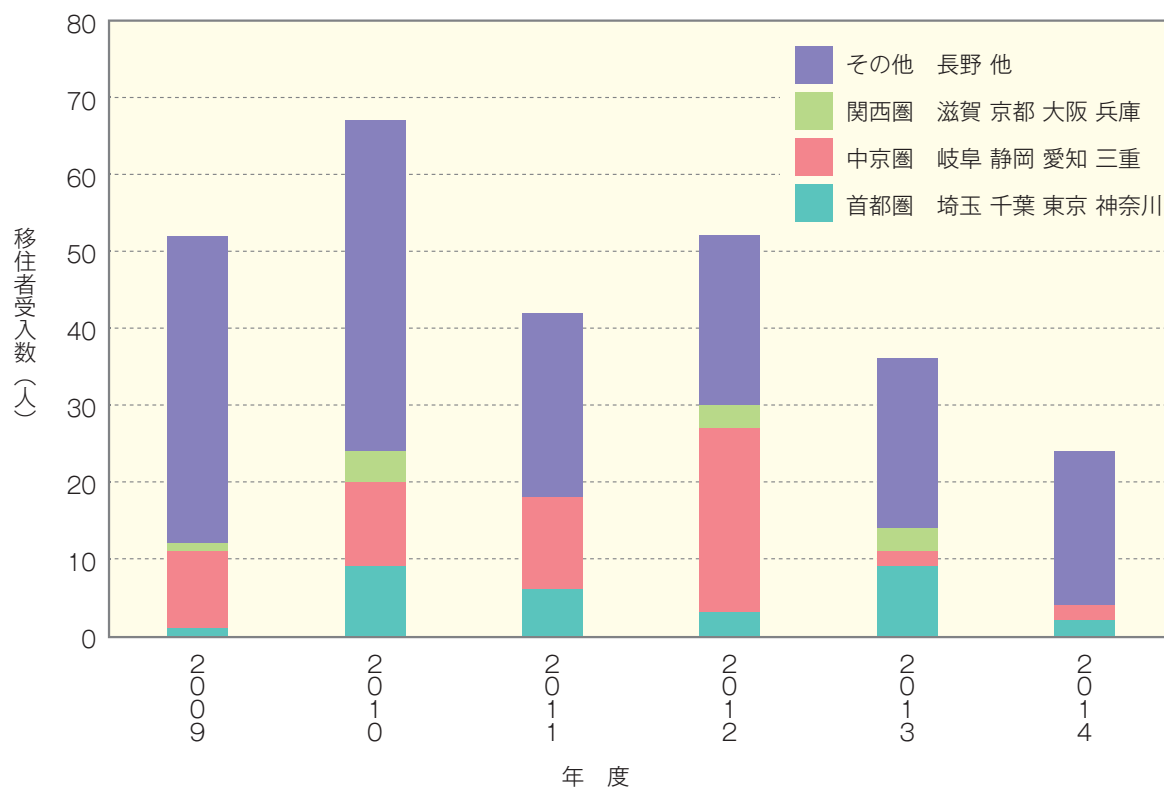


出典：まち・ひと・しごと創生本部事務局提供データから作成



■定住支援センターにおける移住者受入れ数

阿智村では定住支援センターを設置し、移住受入れの相談窓口として機能してきました。センターを通じて6年間に273人（142件）の移住者（主に1ターン）を迎えています。直近5年間を平均すると年間44人の移住者を迎えています。



移住者数（ ）内は件数

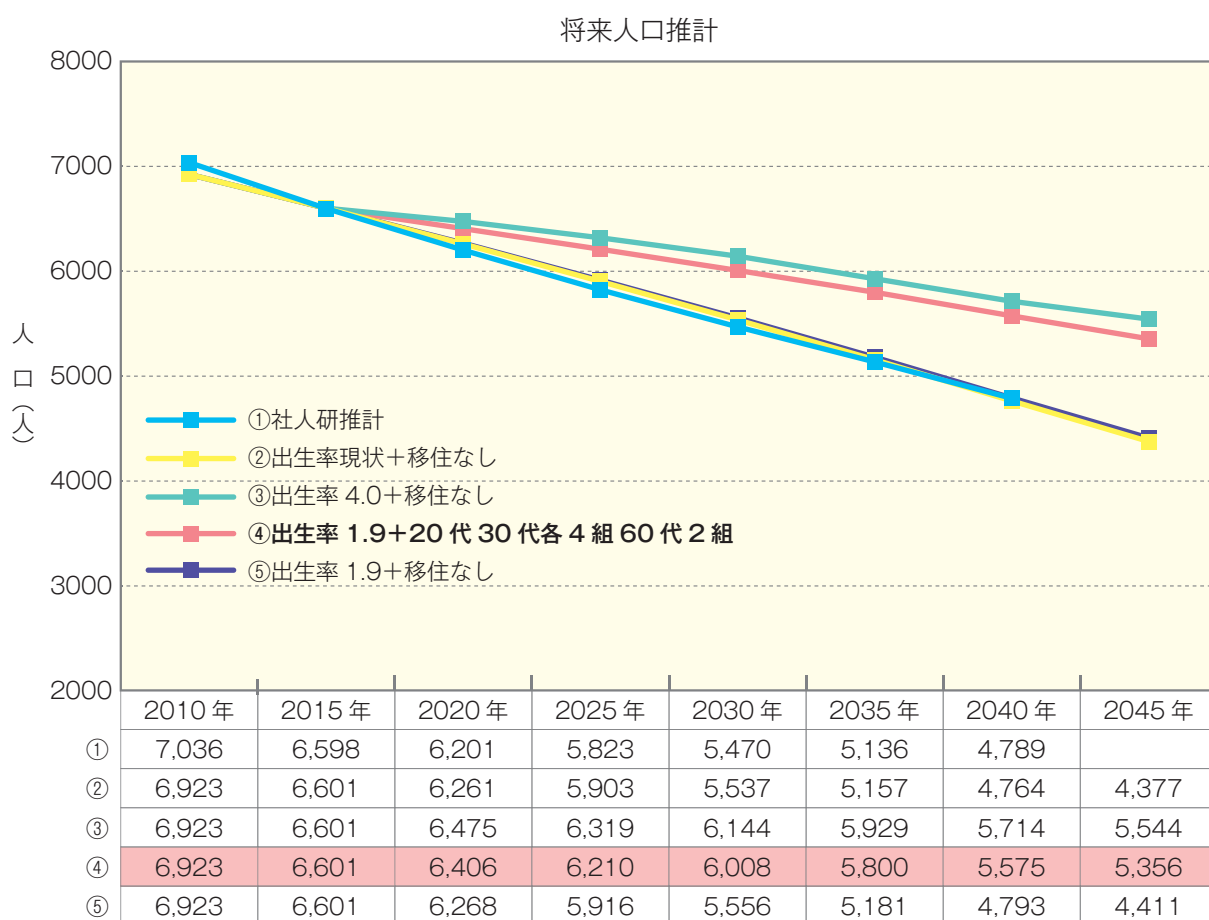
年度	首都圏 埼玉・千葉 東京・神奈川	中京圏 岐阜・静岡 愛知・三重	関西圏 滋賀・京都 大阪・兵庫	その他 長野他	合計
2009	1(1)	10(5)	1(1)	40(22)	52(29)
2010	9(4)	11(5)	4(2)	43(22)	67(33)
2011	6(2)	12(7)		24(11)	42(20)
2012	3(2)	24(12)	3(2)	22(8)	52(24)
2013	9(4)	2(2)	3(2)	22(11)	36(19)
2014	2(2)	2(2)		20(12)	24(17)
合計	30(15)	61(33)	11(8)	171(86)	273(142)

* 定住支援センターが関わったケース。

3. 将来人口の推計と分析

(1) 将来人口推計と目標

本計画では中山間地域研究センターの人口推計プログラムを用いて将来推計人口の試算を行いました。この人口推計プログラムでは2010年と2015年の各年代の人口増減をもとにコーホート変化率法により将来人口を推計します。また移住組数や出生率を任意で設定し加味した形での推計が可能です。ここでは出生率と移住組数を変えた5パターンを提示します。



出典：社人研推計は社会保障・人口問題研究所

現状のまま推移した場合、2045年時点での人口は4,377人と、2015年比約66%となります。前提条件が異なるものの、この結果は社人研推計とほぼ一致しています。

阿智村には保育園が6園、小学校が5校あります。地域にとって学校、保育園があることは重要だと考えます。そこで各保育園・学校を維持できるだけの出生数をめざします。その際、出生数のみで人口を増やすことは困難であり、IUターン者を迎え入れることが必要です。

【阿智村の人口目標】

阿智村の人口目標を下記のように定めます。

2045 年人口 現在の人口（2015 年）の約 80% 5,356 人 （上記グラフ④）

（1）合計特殊出生率目標： 1.9 （年間出生数目標：55 人（2025 年以降 50 人））

（2）年間移住目標：68 人 [44 人（この 5 年間の平均移住者数 * 1）+ 24 人（増加分）]

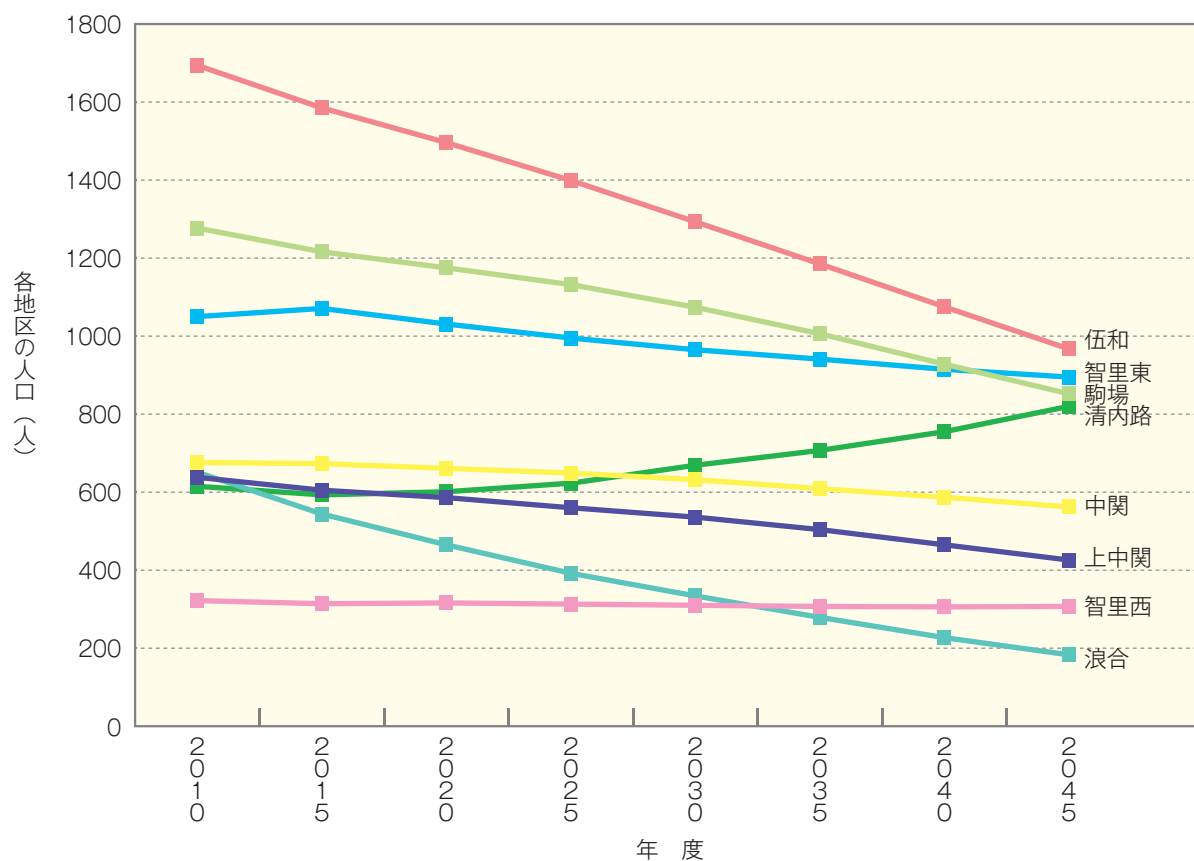
- | | |
|---------------------------------|-------------|
| ①大卒時の U ターン・20 代 I ターン（20 代男女） | 4 組／年間＝8 人 |
| ② 30 代夫婦 IU ターン（30 代夫婦と子ども 1 人） | 4 組／年間＝12 人 |
| ③ 60 代 2 人世帯（定年帰農など） | 2 組／年間＝4 人 |

* 1 定住支援センターを介しての移住



(2) 地区別推計結果

具体的な取り組みをすすめるにあたり、自治会ごとの人口推計を実施しました。このグラフは現状推移した場合の自治会ごとの将来人口推計です。



地区によって人口推移は異なることがわかりました。清内路地区は人口が増加、智里西地区が現在の人口を維持との結果となりました。大きな減少が見込まれるのは伍和地区と浪合地区です。伍和地区についてはこの5年間に6.9%の人口減となっており、2045年には現在の61%まで人口減少する見込みです。浪合地区については16.5%の人口減となっており、2045年には現在の34%まで人口減少する見込みです。

この結果からは同じ村内であっても地区によって状況が全く異なることがわかります。地区ごとの取り組みが必要です。

（３）清内路地区の移住促進の取り組み

今回の結果からは、清内路地区が最も人口の伸びる地域となりました。これはこの5年間にIUターン者を97人迎え入れていることによります。清内路地区は人口減少の著しい地域でした。阿智村との合併直後H21年4月685人でしたがH22年5月には615人まで減少します。しかし「数年後に1年生が1人しかない」ことに危機感を持ち、住民による取り組みがスタートしました。H24年には自治会内に「子ども増やそう育てようプロジェクト」が発足します。プロジェクトでは清内路地区出身の若者へのアンケート調査、移住よびかけのチラシの作成配布、婚活事業などを実施しています。アンケート調査では、地区外に居住する人、地区内に居住する人それぞれにアンケートを行い、地区の住みにくさを感じる点や、転出理由などを調査しています。またH23年に発足した「空き家を考える会」も様々な取り組みを行っています。地区内の空き家の全戸調査を実施し、家の状態、所有者の意向を明らかにしています。また移住希望者の受け入れ相談や、移住してきた人達の相談業務なども担っています。

こうした取り組みを通じて、移住者の受け入れや人口減少に対する関心、問題意識は地域の中で徐々に広がっていきました。地域に暮らす人自身が、地域の将来を考え、必要な取り組みをつくっていくことが大切だと考えます。

またこうした取り組みには清内路振興室が継続的に関わってきています。住民主体の取り組みに行政が関わることで様々な役場関係部署との連絡をスムーズにしたり、地域全体としての取り組みとして位置づけられてきています。お互いの不得手な部分を補いあい、協働の取り組みを進めて来ています。



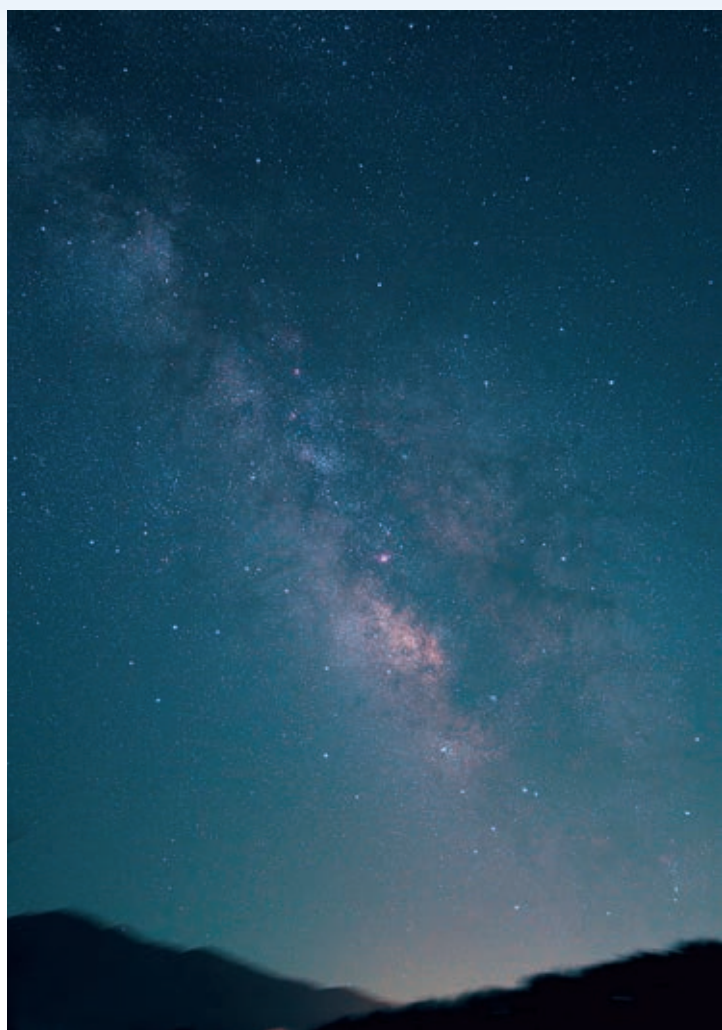
4. 人口減少問題に取り組む基本的視点

- 1) 全村的な人口目標が達成できるように対象者別の具体的施策を総合戦略において策定します。
 - ①出生率の向上
 - ②大卒時、20代でのUターン
 - ③Iターンを中心とする移住の受け入れ
 - ④60代前半のUターン（定年帰農など）
- 2) 地域によって人口減少の度合い、要因、対策は異なっているため、地区ごとに取り組みを進める必要があります。そのためには地域の住民のみなさんが、人口減少により自らの地域はどうかを考え、方向性を決めることが重要です。
- 3) 地域ごとの住民主体の取り組みを進めるため、行政が地域の取り組みを支える体制をつくります。



星ふるさと 阿智村
～日本一の星空と花桃といで湯の郷～

まち・ひと・しごと創生総合戦略



阿 智 村

目 次

第1章 策定にあたって	19
1. 1 目的と背景	19
1. 2 位置付け	19
1. 3 計画の期間	19
第2章 阿智村のめざす姿.....	20
2. 1 阿智村のめざす姿	20
2. 2 基本的な視点	20
第3章 基本目標と基本目標達成のための施策.....	23
3. 1 しごと	24
3. 2 ひとのながれ	28
3. 3 結婚・子育て	30
3. 4 まちづくり	34
第4章 策定推進体制.....	39
4. 1 策定体制	39
4. 2 推進・検証体制	39

第1章 策定にあたって

1.1 目的と背景

「阿智村まち・ひと・しごと創生総合戦略」は「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、阿智村人口ビジョンをもとにして、今後5か年の基本目標や施策をまとめるものです。

平成26年11月に制定された「まち・ひと・しごと創生法」では、「急速に進む少子高齢化の進展に対応し、日本全体、特に地方の人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正する。それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことが喫緊の課題である」としています。

阿智村においても全国と同様に人口減少が進行しています。誰もが暮らしやすい阿智村をつくり、村民みんなが幸せに暮らしていくために、総合戦略を策定します。

策定にあたっては住民の意見を聞くことを重視し、8自治会・11団体との懇談を実施しました。また若者状態調査を実施して、阿智村に暮らす若者の生活ぶりや地域に対する思いを聴取しました。さらには産官学金関係者を含む計画審議会、議会において計画案の審議を行い、これらの意見をもとに本計画を起草しました。

1.2 位置付け

阿智村第5次総合計画は平成29年度までで、総合戦略の前半3年間と重なります。また各自治会で策定している地区計画も平成29年度までで、次の計画を立てる時期が来ています。そこで本計画の策定においては第5次総合計画の検証を含めて実施し、第6次総合計画、次期地区計画策定の足がかりとします。

第5次総合計画 H20-29 地区計画 H25-29		
	まち・ひと・しごと創生総合戦略 H27-31	
		第6次総合計画 H30-39 地区計画 H30-34

1.3 計画の期間

平成27年度から5年間

第2章 阿智村のめざす姿

2. 1 阿智村のめざす姿

阿智村の人口はこのままいくと30年後の2045年には66%まで減少することが見込まれています。地区の人口減少は、住みやすさに少なからぬ影響をもたらします。村内各地域の保育園、学校、各種機能を維持すること、農業、景観保全、地域のお役など、人口はあらゆる場面で生活のあり方、地域のあり方を決める大きな要素です。そこで本計画では30年後に現在の人口の80%を維持することを目標としました。

2012年から始まった「スタービレッジ阿智」の取り組みは阿智村の知名度を一気に向上させました。星という阿智村の自然環境を活用した取り組みであり、「星ふるさと」をキャッチフレーズに、すべてのひとの心のふるさととして人も星も輝く村をめざします。

またスタービレッジ阿智によって、阿智村を訪れる観光客は増えています。この交流人口の拡大を阿智村の定住人口の増加に結びつけるためにも、住み続けたい、住み続けられる村であることと、定住者を迎え入れる体制があることが必要です。これまでも阿智村では、住民のみなさんによる定住者受入れのための取り組みが行われてきました。また村としても定住支援センターを設置し、移住促進に努めてきました。今後は「暮らす、生きる。阿智家族」をスローガンにさらなる定住促進に取り組みます。

本戦略の策定をあらためて村民一人ひとりが村の将来を考え、その良さを理解する機会とし、住み続けたい、住み続けられる村づくりをすすめていきます。

2. 2 基本的な視点

■視点① 誰もが暮らしやすい地域

住んでいる私達がこの村に住んで良かったと思える村にすることが何より重要です。結果的にそうした地域に移住者が集まってくると考えます。

■視点② 若者が暮らしやすい地域ー持続可能な阿智村

本計画の策定にあたり若者状態調査を実施しました。村内に暮らす20～40代の方、21人からヒアリングを行い、阿智村での生活、感じていることについてお聞きしました。聞いた話は整理し、特徴をまとめました。その中で若者が暮らしやすい村の条件として見えてきたのは以下の5点です。

- ・ 多くの人に開かれた交流の場のある村
- ・ 地域社会と若者がつながっている村
- ・ 子育てしやすい村
- ・ 若者にとって、住環境の整備されている村
- ・ 若者がやりたい仕事を自分たちでつくっていける村

本調査によりわかったことは、若い人は地域と関わりたい、貢献したいとの思いを持っていることです。

しかしながらきっかけがないことや、地域との接点が限られているために十分にできずにいます。また場合によっては地域の活動が負担となり暮らしにくさを感じることがあります。多様なつながり方があり、若者が認められる居場所が地域にあることが必要であると考えます。若い人が主体となってやりたいことに取り組める村であることが必要です。

■視点③ 集落の維持

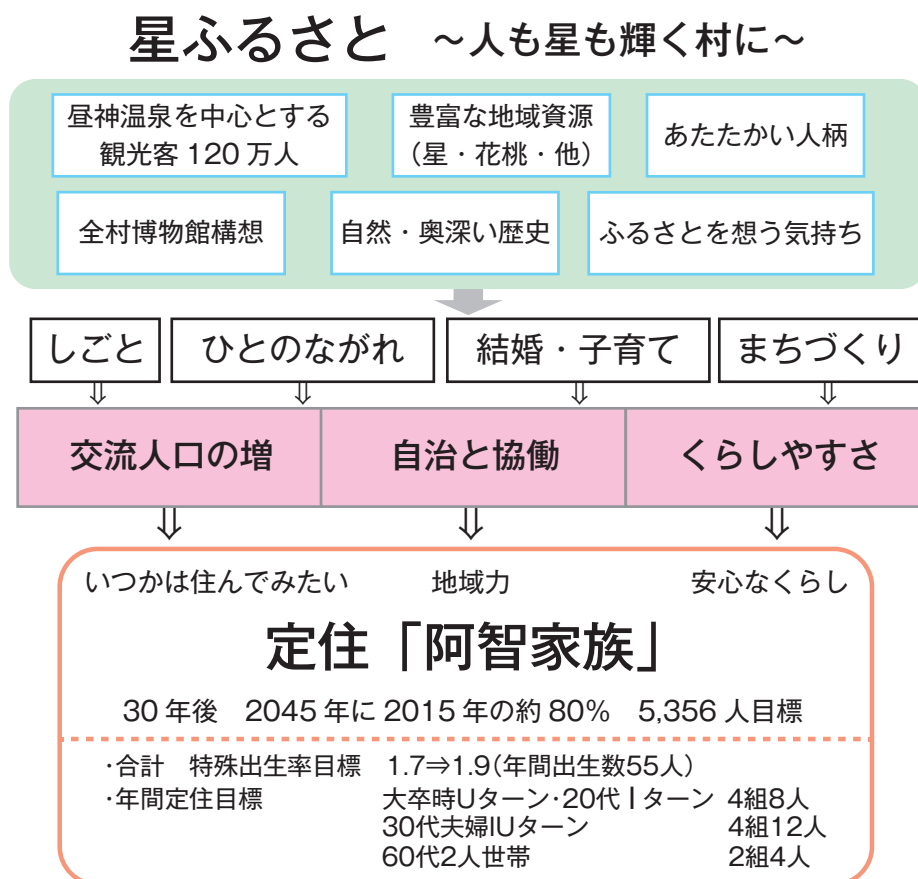
集落は生活の基盤となる単位です。集落単位、自治会単位で地域の実状に即した取り組みをすすめ、集落を維持することが必要です。

■視点④ 地域内経済循環の仕組み構築

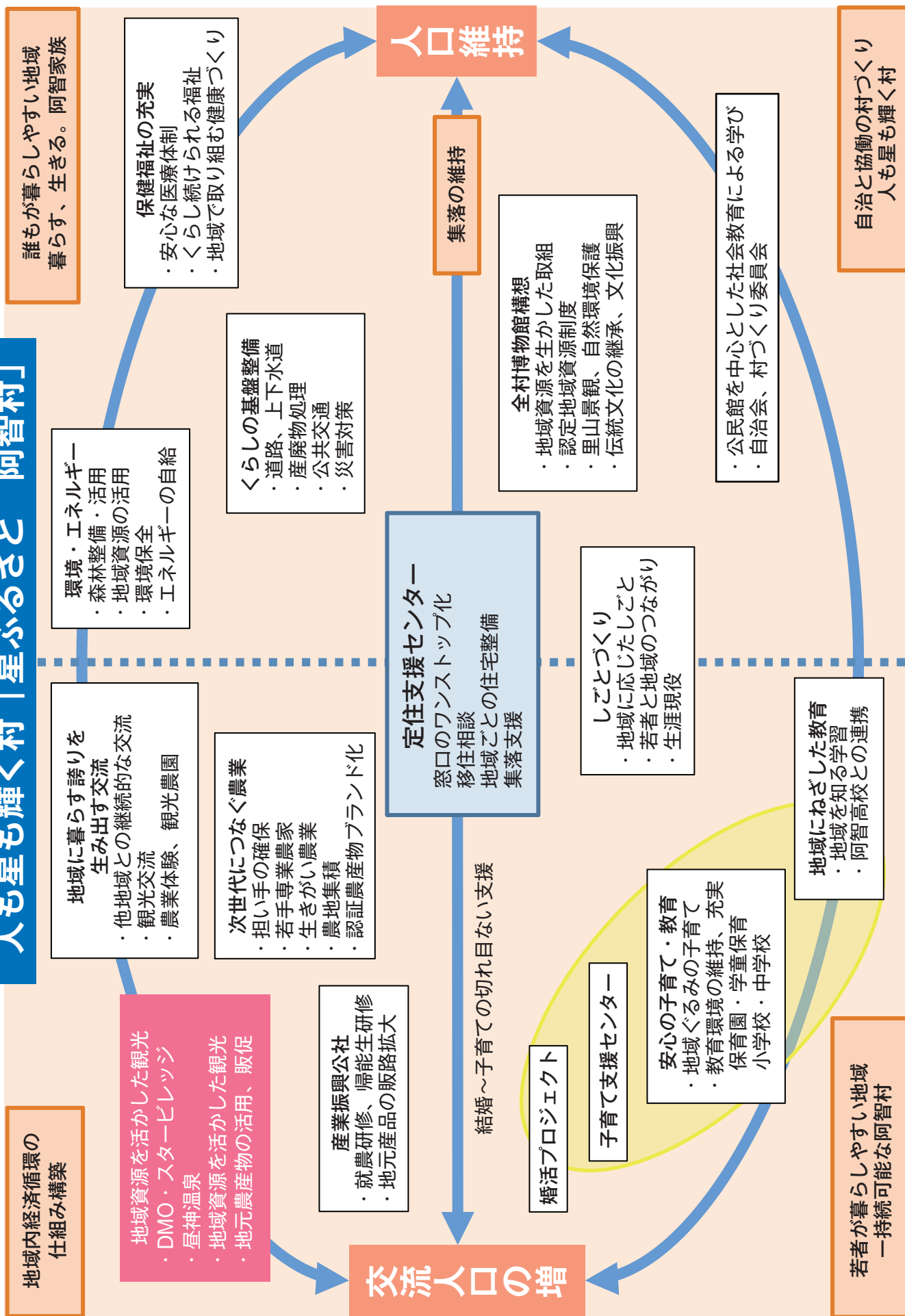
スタービレッジの取り組みにより、阿智村を訪れる観光客が増えています。観光客がこの地に滞在し、村内各所を訪れる仕組みをつくり、農林業、商工業などへ効果を波及させることが必要です。地域資源を活かした産業をほりおこし、地域課題の解決を地域の仕事としていくことで、地域内経済循環をつくりだします。

■視点⑤ 自治と協働の村づくり

地域をつくるのはここに暮らす住民の皆さんの自治と協働の力にほかなりません。その力が十分に発揮できるよう村は必要な取り組みをすすめます。



人も星も輝く村「星ふるさと 阿智村」



第3章 基本目標と基本目標達成のための施策

■政策・施策の体系図

1. しごと

施策 1	地域資源を活かした観光
施策 2	次世代につなぐ農業
施策 3	地域のしごと

2. ひとのながれ

施策 1	定住促進
------	------

3. 結婚・子育ての切れ目ない支援

施策 1	結婚支援
施策 2	安心の子育て環境
施策 3	地域に根ざした質の高い教育

4. まちづくり

施策 1	集落の維持とくらし
施策 2	環境・エネルギー
施策 3	自治と協働の村づくり



3. 1 しごと

1. 基本目標

既存産業の育成と新しい小さな仕事づくり支援により、職場を創出する

数値目標	基準値	目標値 (H31)
観光消費額	50 億円 (H26)	60 億円

2. 基本的方向

村外で暮らす阿智村出身者の中には「阿智村に戻りたいが、仕事がないから戻れない」と考えている人が少なくありません。一方、近年の傾向として、農山村のコミュニティの中で地域に関わる仕事がしたい、地域社会の役に立ちたいと考えている若者が増えています。そうした中では、既存産業の発展とともに農山村の特長を活かした新たなしごとをつくり出すことが重要です。

基幹産業である観光分野では、「スタービレッジ阿智」の取り組みをさらに推進するとともに、拡大する交流人口を村内各所・各分野へ波及させるよう各業種との連携を図ります。また昼神温泉や花桃など、阿智村の地域資源を活かした取り組みを支援します。

基盤産業でありながら、耕作放棄地の増加などが問題となっている農業分野では、多様な農業スタイルを提案し農業者の確保を図ります。

商工分野では、既存の企業の経営を支援するとともに、空き家や空き店舗を活用した新たな取り組みを研究します。

さらに近年は、複数の小さなしごとを組み合わせる暮らし方が広がっています。地域を豊かにする新しい小さなしごとを様々な分野でつくり出す支援をし、阿智村の中に多様なライフスタイルモデルをつくり出すことで、定住としごとの可能性を広げます。



3. 具体的施策

■しごと① 地域資源を活かした観光

施 策	KPI ※1
日本版 DMO ※2 への登録 ・ 3 セク（株）屋神温泉エリアサポートを、DMO登録し村全体の観光をマネジメントする組織に変更し、日本一の星空を活かした観光振興をはかります。	スタービレッジ事業来場者数 観光入り込み客
「日本一の星空」スタービレッジ事業 ・ 環境省認定の「日本一の星空」をテーマに地域ブランドの構築を行うスタービレッジ事業と環境整備に取り組みます。 ・ 星を切り口に、屋神温泉の魅力の向上に取り組みます。 ・ 星に関連する特産品の開発を検討します。	
屋神温泉の魅力向上 ・ 「屋神温泉」ブランドの向上と観光客誘致の強化を図ります ・ 屋神将来構想の中で新しいビジョンを提案しハード面の整備を含めた魅力ある観光地づくりを進めます。 ・ 情報発信と経営支援の充実に取り組みます。	
村内各地域の資源を活かした観光連携 ・ 村内産業・地域を「観光資源」としての位置づけ、連携を強化します。 ・ 旅のメニューづくりと特色ある観光地づくりを進めます。 ・ 産業振興公社と連携し、地産地消システムづくりに取り組みます。	
魅力ある農山村の景観保全 ・ 美しい自然と環境を守る施策も含め、今後も継続的に実施していきます。	

KPI	基準値	目標値 (H31)
スタービレッジ事業来場者数	33,000 人 (H26)	99,000 人
観光入り込み客	127 万人 (H26)	133 万人

※1 KPI 「重要業績評価指標」施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標をいう。

※2 DMO 地域全体の観光マネジメントを一本化する番地型観光のプラットフォーム組織を指す。

■しごと② 次世代につなぐ農業

施 策	KPI
農業の担い手育成 ・ 担い手の育成を農業関係団体、関係機関と連携し推進します。 ・ 産業振興公社における農業研修生を確保し担い手を育成します。 ・ 定年帰農者への研修などを通じて生きがい農家を育成します。 ・ 農家アドバイザー設置による高技術の普及を行います。 ・ 担い手への農地利用集積をすすめるとともに、新規就農者への定住支援を行います。 ・ 遊休農地の発生防止に努め、農業法人経営、滞在型農園を研究します。 ・ 推進品目の絞り込みを行います。	阿智村産業振興公社農作物販売取扱高
認証農産物のブランド化と有利販売ルートの充実 ・ 有機いきいき堆肥の原料確保に取り組み、安定供給を図ります。 ・ 米など認証農産物のブランド化に取り組み、有利販売を図ります。 ・ 干し柿の販路を開拓します。 ・ 昼神温泉への販売拡大、中京地区へのアンテナショップ開拓を図ります。	

KPI	基準値	目標値 (H31)
阿智村産業振興公社農作物販売取扱高	84,973 千円 (H26)	150,000 千円



■しごと③ 地域のしごと

施 策	KPI
地域内経済循環の構築 ・ 商工業者への経営支援充実と意欲的な経営者の育成を行います。 ・ 地域に根ざした商店街づくりと買物弱者支援を進め、地域内消費を推進します。 ・ 観光客の村内消費の活性化を進めます。	村内企業従業員数（工業統計調査） 地元滞留率
将来につながる産業の育成 ・ 工業技術センター及び EMC センターの試験、機能評価を強化し、飯伊地域の企業の新たな研究開発を支援します。また、信州大学航空機システム共同研究講座に向けた準備室の立ち上げに取り組みます。	工業技術センター EMC センター施設利用件数 航空機システム共同研究講座参加人数
新たな産業と小さなしごとづくり ・ 新たなしごとづくりに取り組むグループ、個人を支援します。 ・ 地域に必要とされる技術を身に付けられる場をつくります。 ・ 伝統野菜・花木・薬草など、新たな産業づくりを支援します。 ・ 多くの特産物研究がなされるよう取り組みを進めていきます。 ・ 高齢者が働き続けられるよう、関係機関との連携を図り就労支援を進めます。 ・ 村外に出た学生が戻ってくる施策を検討していきます。 ・ 阿智村版小さなしごとと求人情報の発信と地域に必要とされるしごとと担い手をつなぐ拠点機能研究を行います。	創業支援者数 しごとづくりに関する研究会のべ参加者数

KPI	基準値	目標値 (H31)
工業技術センター、EMC センター施設利用件数	0 件 (H26)	500 件 (5 年間)
航空機システム共同研究講座参加人数	0 人 (H26)	5,000 人 (5 年間)
村内企業従業員数（工業統計調査）	795 人 (H26)	800 人
地元滞留率	12.4%(H24)	15%
創業支援者数	0 件 (H26)	3 件 (5 年間)
しごとづくりに関する研究会のべ参加者数	0 人 (H26)	50 人

3. 2 ひとのながれ

1. 基本目標

定住人口の維持や減少の緩和のため居住環境を充実させます。

数値目標	基準値	目標値 (H31)
定住支援センターが関わる移住者数	44 人 (H22-26 の年平均)	68 人

2. 基本的方向

定住してもらうには「住まい」の確保が基本であり、村営住宅、宅地、空き家の確保など居住環境を整備することが重要です。

「住まい」のニーズは農業を目的とする方、静かな田舎暮らしを望む方、昼神温泉の近くを望む方、子育てのための住宅、新築するために宅地を探されている方によって希望する地域は異なっています。各地区の地域に応じた定住施策の実施とともに、新たな分譲地だけではなく優良な宅地を確保するために、空き家に対する新たな補助制度の検討が必要です。

定住支援センターは地域と民間事業者と協力して不動産や仕事に関することも充実させ定住支援を行います。

また、従来の阿智村にない新しい価値観を持つ人々を受け入れることにより、阿智村の魅力をさらに発展させます。



3. 具体的施策

■ひとのながれ① 定住促進

施 策	KPI
定住支援センターの充実 ・ 移住希望者（UJI ターン者）への積極的な支援を行うとともに、定住におけるワンストップサービス化を進めます。 ・ 地域での定住促進の取り組みや定住支援センターをサポートする定住支援員を設置します。 ・ 阿智家族ウェブサイトの充実と情報発信を進めます。	移住相談件数
若者定住のための環境整備 ・ 定住促進住宅の建設を検討します。 ・ 分譲住宅地の確保、未契約の分譲地の販売促進を図ります。 ・ 定住促進のための住宅新增改築等支援金を交付します。 ・ 若者の就労や子育てにつながる住宅支援を検討します。	空き家利活用件数
空き家の活用 ・ 空き家の再調査、情報収集を実施し、空き家の有効活用を検討します。 ・ 民間事業者と連携し空き家の取引を円滑に進めます。 ・ 空き家等対策協議会を設置し、特定空き家対策を推進します。	
村営住宅の整備と運営 ・ 計画的な環境整備、リフォーム、建替え、解体、払い下げを実施します。	
ふるさと交流事業 ・ 友好関係市町村やふるさと大使、阿智村人会、関係団体との連携を深めます。	移住相談件数（再）
地域おこし協力隊 ・ 地域おこし協力隊を継続採用していきます。	地域おこし協力隊採用

KPI	基準値	目標値（H31）
移住相談件数	50 件（H26）	70 件
空き家利活用件数	48 件（H26）	53 件
地域おこし協力隊採用	3 人（H26）	6 人

3. 3 結婚・子育ての切れ目ない支援

1. 基本目標

若者が希望をもって結婚、子育てできる村をめざす。

数値目標	基準値	目標値 (H31)
合計特殊出生率	1.7 人 (H26)	1.9

2. 基本的方向

近年、若者の価値観は、多様化してきており、「若者実態調査」からは、自然豊かな農村で子育てをしたい、故郷阿智村に帰って子育てをしたいと思っている若者も多く見られました。

結婚支援事業を進め、若者が結婚に希望を持てるような施策を進めます。

若者が阿智村の暮らしや子育てに魅力を感じるためには、経済的基盤はもちろんのこと、豊かな子育てができる環境整備が必要です。

子育てしながら安心して働くためには、保育園や学童保育の充実が不可欠であり、未満児保育施設の増設や、そのための保育士、学童保育支援員の確保も課題です。

また、各保育園が地域の子育て拠点となるためにも、住民や保護者が保育園の運営に参画できるような仕組みづくりなども必要です。

メディアが与える健康への影響は、年々深刻さを増していることから、幼少期から多くの自然体験ができるような取り組みを進めます。その思い出があることで、いつか阿智村に戻ってきてくれることを期待します。

村には、多くの地域活動がありますが、子育てと地域活動の両立に負担を感じるケースもあります。子育てをしながら地域の活動も続けられる方策も考えなければなりません。

以上のような実態を踏まえ、若者が「阿智村で結婚したい」「阿智村で子育てしたい」「阿智村でもう一人産みたい」と思える村づくりを進めます。



3. 具体的施策

■結婚・子育て① 結婚支援

施 策	KPI
結婚支援 ・多様なニーズに応える結婚支援体制を構築します。 ・婚活以前の出会いの機会を提供するとともに、同級会、同窓会の支援を検討します。 ・婚活や結婚に対する地域の理解を深めます。	村内在住者の結婚人数

KPI	基準値	目標値 (H31)
村内在住者の結婚人数	45 人 (H26)	45 人



■結婚・子育て② もう1人産みたくなる子育て環境

施 策	KPI
子育てを応援します ・健全な妊娠出産のため、思春期からの性教育を充実させます。 ・子どもを望む夫婦を支援します。不妊治療費用を助成します。 ・妊娠期を健やかに過ごすために支援します。 ・地域で子育て支援ができるよう新米ママあちっこ応援隊(母子保健推進員)制度をつくります。 ・保育サポーター等、身近な子育て支援者を増やせるように努めます。地域住民を対象に学習会や講演会の企画、祖父母の孫育てを支援します。 ・臨床心理士の設置、新生児訪問、各教室の充実、ひとり親家庭の支援、「こども広場」と「つどいの広場」の開設に取り組みます。	地域子育て支援拠点事業 年間延べ利用数
保育園 ・公立保育園としての公的責任を果たします。 ・各保育園を各地域の子育て拠点と位置付けます。 ・各園に園長を配置するなどの組織の充実を図ります。 ・6園体制を継続します。 ・未満児保育を充実させます。	朝6時半までに起床する 子どもの割合 夜9時までに寝る子ども の割合
学童保育 ・全小学校区で学童保育事業を継続するために、学童保育支援員の確保と資質向上に努めます。	放課後児童健全育成事業 (学童保育)利用者人数
学習機会と情報の提供 ・子どもを持つことの喜びと責任を学べる両親学級を開催します。 ・親への教育的支援を充実させることで、育児力の向上を図ります。 ・乳幼児の健康な発育発達を支援します。 ・あち子育てサイトを創設し、メール相談、休日、夜間相談窓口を設置し、手軽に村の子育て情報が得られ、気軽に相談できる仕組みをつくります。 ・妊娠、出産、子育て期の切れ目ない食育を推進します。 ・「あちっ子ライフ」事業による生活習慣の意識づけを継続します。	朝食を毎日食べる子ども の割合

KPI	基準値	目標値 (H31)
地域子育て支援拠点事業年間延べ利用数	686 組 (H26)	960 組
放課後児童健全育成事業 (学童保育) 利用者人数	110 人 (H26)	100 人
朝6時半までに起床する子どもの割合 (未就学児)	59%(H26)	70%
夜9時までに寝る子どもの割合 (未就学児)	59%(H26)	70%
朝食を毎日食べる子どもの割合 (小中学生)	89%(H26)	95%

■結婚・子育て③ 地域に根ざした質の高い教育

施 策	KPI
地域に根ざした学校教育 ・ 小学校 5 校、中学校 1 校を維持します。 ・ 複式解消、少人数学習支援のための教員を配置します。 ・ 学力定着と家庭学習の習慣化を目指した学習支援主事、教育支援主事を配置します。 ・ 小中学校間の連携や小学校間の交流を進めます。 ・ 学校評議員制度の活性化により、学校運営の充実を図ります。 ・ 学力・体力の向上に向けた学校独自の意欲的な取り組みを支援します。 ・ 小学 5 年生を対象にした通学合宿を実施します。 ・ 施設設備を整え、よりよい教育環境づくりを目指します。 ・ 文部科学省「教育の IT 化に向けた環境整備 4 カ年計画」を踏まえた ICT 環境の整備について研究、実施します。	国語・算数において「勉強が好き」な児童・生徒の割合
阿智高校の存続と発展 ・ 阿智高校学習塾を支援します。 ・ 阿智高校と連携し地域におけるキャリア教育を推進します。	阿智高校地域政策コース 地域と連携した年間授業時間数

KPI	基準値	目標値 (H31)
全国学力・学習状況調査 国語・算数において「勉強が好き」な児童の割合（小学校）	国語 25.0% 算数 38.8% (H27)	国平均値より 高い
全国学力・学習状況調査 国語・数学において「勉強が好き」な生徒の割合（中学校）	国語 23.3% 数学 29.1% (H27)	国平均値より 高い
阿智高校地域政策コース 地域と連携した年間授業時間数	0 時間 (H26)	9 時間



3. 4 まちづくり

1. 基本目標

各地域の特性を生かし、安心安全なふるさとづくりを目指す

数値目標	基準値	目標値 (H31)
村づくり委員会 活動団体数	60 団体 (H26)	70 団体

2. 基本的方向

阿智村で暮らし続けるためには、誰もが安心して生活できる環境づくりが重要です。また、地域における人と人とのつながりづくりは、幸せに暮らすために欠かすことができません。

集落の維持と暮らし分野では、誰もが暮らしやすい生活環境の整備と災害に強い村づくりを目指します。高齢者・障がい者に関わらず誰もが安心して相談できるような窓口の整備と、住まい、医療、介護、生活支援・介護予防が一体的に提供される地域包括ケアシステムの実現に向けて取り組みます。

環境・エネルギー分野では、住民の環境保全への意識を高め、自然環境の保全や省資源・省エネルギーの推進とエネルギー自給力の向上に努めます。喫緊の課題である森林整備と資源の利活用を図るため、雇用の場としても見直しを行います。

自治と協働の村づくり分野では、住民のさまざまな学習や活動を支援し、お互いが協力して地域振興に取り組んでいける仕組みづくりを進めます。



3. 具体的施策

まちづくり① 集落の維持と暮らし

施 策	KPI
公共交通 ・公共交通に対する地域ごとの住民ニーズを把握し運行改善につなげます。 ・広域交通網実現のため、近隣市町村と連携し取り組みます。 ・観光振興組織との連携による、巡回バスの利用向上に努めます。 ・診療所への交通確保に努めます。	公共交通利用者数
災害に強い地域づくり ・地域防災力の向上のための支援マップ、支援名簿などを作成します。 ・地域防災計画の見直しを行います。 ・消防団組織の体制強化、活動内容のあり方研究に取り組みます。 ・安定的に稼働する防災無線運営、防災行政無線（移動系）運用を研究します。	消防団を補完する予備消防組織の拡充
くらしの基盤 ・道路の安全性に重点をおき維持修繕工事を推進します。 ・橋梁長寿命化修繕計画により安全性を最優先に進めます。 ・水源、施設の整備、維持管理を行い、安全な水道水の安定供給、安定的な水質での排出を目指します。 ・未水洗化世帯に水洗化の普及促進を図り、普及率、接続率の向上を目指します。 ・住民交流の活性化を図るためICTを活用したコミュニケーションシステムの構築を目指します。 ・フリーW i f iなどの外国人向けのネットワーク環境のニーズに対応するための検討を行います。 ・交通死亡事故ゼロをめざし、交通安全運動を実施します。	水洗化率
健 康 ・地域での健康づくりを支援します。「あち健康プラン21」を推進し、住民の健康づくりに関する意識向上に努めます。 ・健診受診の定着により、脳卒中予防や生活習慣病の改善に取り組みます。 ・がん検診受診を勧め、早期発見・早期治療につなげます。 ・食による健康づくりを推進します。 ・心の病気がある人もいきいきと暮らせる環境づくりをします。 ・飯田下伊那診療連携システムを推進し中核病院との連携をはかります。	S M R（標準化死亡比） 脳梗塞の死亡率

施 策	KPI
福 祉 ・ 地域包括ケアシステムを構築します。 ・ 生きがい講座やサロンなどの居場所や交流の場の整備により高齢者の社会参加を促すとともに、介護予防に取り組みます。 ・ 様々な主体による見守りや支え合いの取り組みを支援し、見守りや支え合いの仕組みづくりの構築を目指します。 ・ 自分らしく安心して住み続けられる住まいの設置を目指します。 ・ 安心して在宅で医療を受けられる環境を整備するとともに、医療と介護の連携を図るための仕組みづくりを目指します。 ・ 認知症になっても暮らし続けられる地域づくり、認知症予防を推進します。 ・ 障がい者の社会参加、生きがいづくりを推進します。	ふれあいサロン実施団体 おたっしゃかい利用実人数

KPI	基準値	目標値 (H31)
公共交通利用者数	240,320 人 (H26)	238,000 人
消防団を補完する予備消防組織の拡充	3 地域 (H26)	5 地域
水洗化率	90%(H26)	94%
S M R (標準化死亡比) 脳梗塞の死亡率	男性 165.6 女性 152.9 (H20-24)	男女とも低下 (H25-29)
ふれあいサロン実施団体	35 団体 (H26)	38 団体
おたっしゃかい利用実人数	59 人 (H26)	65 人



■まちづくり② 環境・エネルギー

施 策	KPI
環境保全 ・地球温暖化対策を実行します。 ・地球環境の学習を推進します。 ・一般廃棄物最終処分場の整備を推進します。 ・ごみの不法投棄対策を行います。 ・公害のない環境づくりを目指します。 ・「阿智村水道水源保護条例」を整備し、水道水源の保護を図ります。	一般廃棄物最終処分場埋立可能面積
森林整備と活用 ・計画的な森林整備を推進します。 ・多様な用途への森林資源の利用と地域内の資源循環の推進を図ります。 ・路網を始めとする基盤の強化を図り、木材搬出、山林管理のコスト軽減に取り組みます。 ・農林業に大きな被害を与えているサルをはじめとした獣害対策を強化します。 ・林業関係団体の育成を支援し、関係者の裾野を拡大します。	木材出荷量 農林業被害額
エネルギー自給 ・家庭や事業所等へ再生可能エネルギー設備導入への支援を行いエネルギーの自給確保を推進します。	住宅等の再生可能エネルギー設備導入件数

KPI	基準値	目標値 (H31)
一般廃棄物最終処分場埋立可能面積	0 ㎡ (H26)	750 ㎡
木材出荷量	1,460㎡(H26)	2,500㎡
農林業被害額	4,134 千円 (H26)	1,000 千円
住宅等の再生可能エネルギー設備導入件数 (補助金による支援件数)	221 件 (H26)	320 件

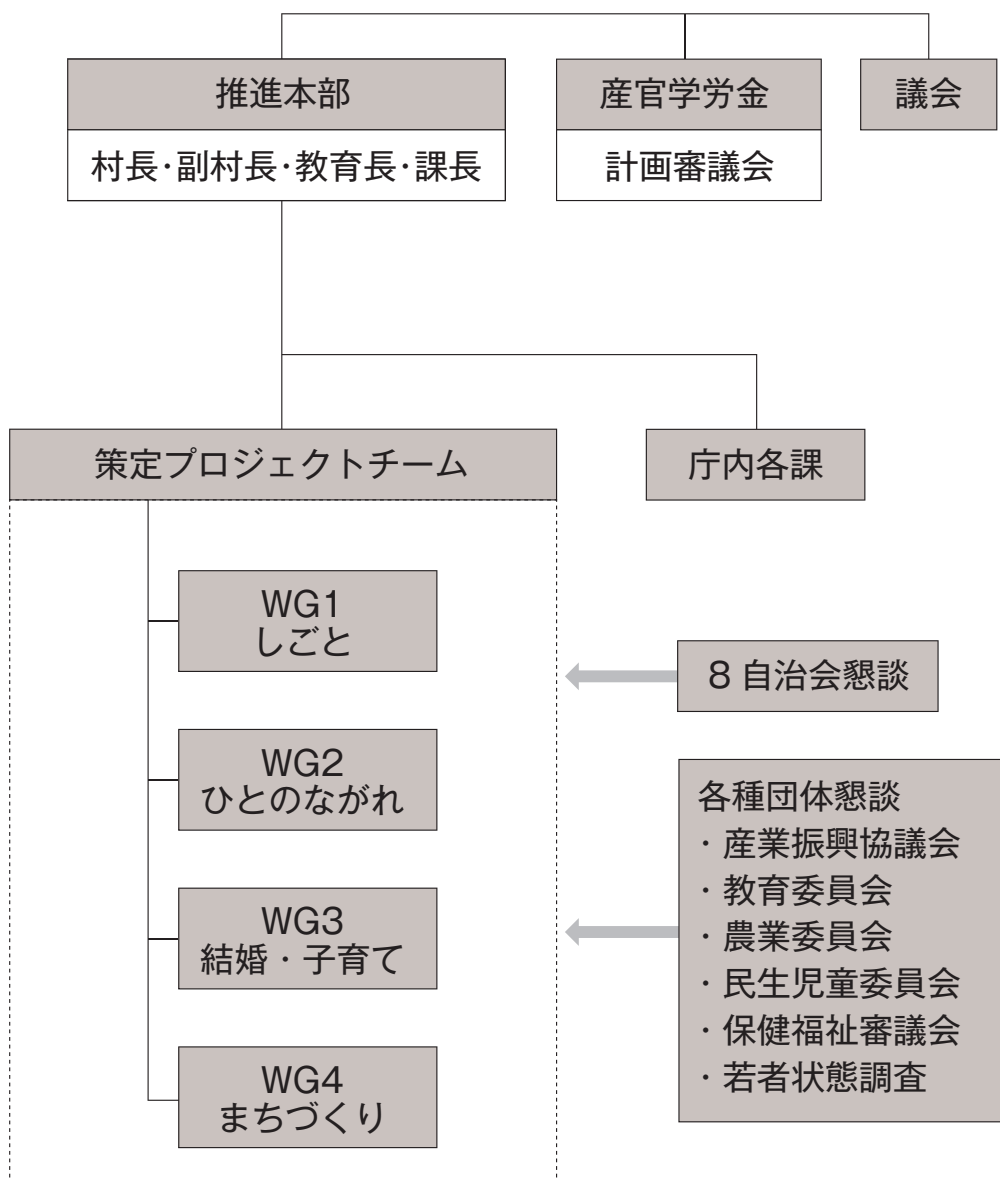
■まちづくり③ 自治と協働の村づくり

施 策	KPI
全村博物館 ・ 認定地域資源制度と関連した事業を進め、地域愛を育てます。 ・ 全村博物館構想を進めるための能動的な組織づくりや学習活動支援を進めます。 ・ 活動や地域資源が住民に理解されやすい仕組みをつくり、全村博物館構想の「見える化」と美しい村づくりを推進し、地域の景観整備を図ります。 ・ 地域づくりと結びついた、住民と協働する文化財保護を目指します。	認定地域資源数
地域づくりの推進 ・ 自治会活動をより活発にし、住民主体の村づくりを進めるための支援を行います。 ・ 集落支援員などの設置により地域の課題や地域振興策の積極性、活発化を図ります。 ・ 住民の自主的な取り組みを支える村づくり団体への支援と協働の取り組みを進めます。 ・ 振興室を存続し、自治会や振興協議会と協働して地域振興に向けた取り組みや振興協議会答申の具現化を進めます。	集落支援員の配置 村づくり委員会活動団体数
社会教育 ・ 地区公民館における地域学習、様々な分野における自主的な学習、社会教育研究集会を軸とした系統的な学習を通し、住民主体の活動を支援します。 ・ 読書活動を推進し、読書および図書館活動の充実を進めます。 ・ 社会体育施設の充実と社会体育の振興をします。体育団体の活動、チャレンジゆう Achi の自立を支援します。	

KPI	基準値	目標値 (H31)
認定地域資源数	0 件 (H26)	50 件
集落支援員の配置	0 人 (H26)	5 人
村づくり委員会活動団体数	60 団体 (H26)	70 団体

第4章 策定推進体制

4.1 策定体制



4.2 推進・検証体制

本計画の施策・事業の検証は計画審議会、議会とともに検証し、必要な改善などを行います。

minami shinsyu **ACHI** 阿智村役場
〒395-0303 長野県下伊那郡阿智村駒場483
電話 0265-43-2220 FAX0265-43-3940
E-mail:info@vill.achi.nagano.jp
URL <http://www.vill.achi.nagano.jp/>